

2009年9月28日  
号 外

民主党プレス民主編集部  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町1-11-1  
電話03-3595-9988 (代表)  
press@dpj.or.jp  
http://www.dpj.or.jp

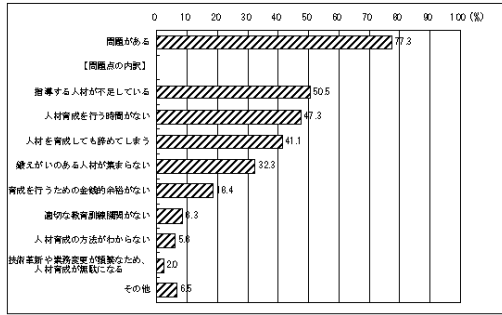
# 明日の日本 生活が第一

## 今こそ非正規雇用を問う！

衆議院議員まつばら仁事務所  
学生インターン編集版

モノづくり日本の危機！

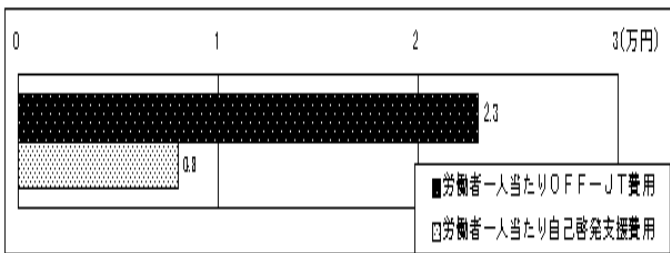
厚生労働省統計データから



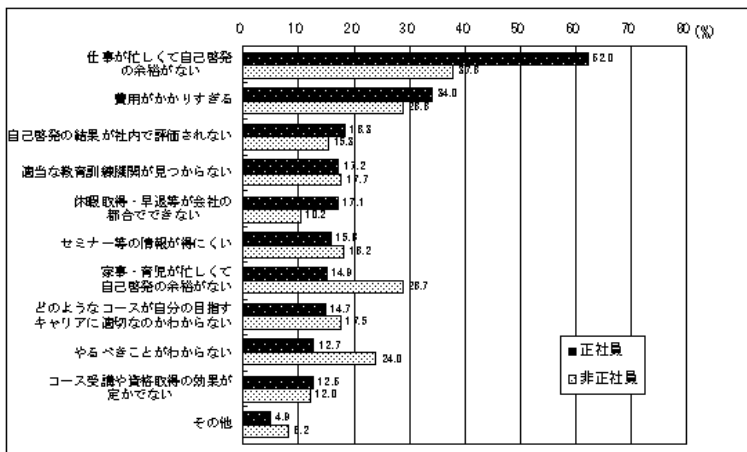
### 各技術開発の試みにも問題点

各企業は従業員に対し様々な試みを行っている。しかしその試みは正社員と非正社員とでは大きな差がある。特に非正社員については十分な試みが行われていない状況である。左のグラフは能力開発を実施した企業がどのような点に問題を感じたかについて調べたものである。実に「割以上の企業が能力開発の問題があると答えている。その中でも指導する人材の不足や人材を育成する時間の不足をあげている企業が多い。

企業は自社で技術開発を行う「OJT」や職場以外の施設などで技術開発を行う「Off-JT」がある。どちらを行った場合でも実施コストがかかる。各技術開発のメリットは指導者が直接指導を行うことが出来ることである。デメリットは能力開発を行い、企業の生産性向上に貢献しても賃金に正確に判断しにくいことが挙げられる。これは技術を獲得するために努力する労働者のインセンティブに影響が出そうである。その



他にも、「自己啓発支援」という労働者自身の自主的な行動による能力開発がある。この方法は企業側としてはコストがかからないが、これは自発的な自習によるものなので労働者が行うかどうかによって左右されてしまう。左の図では自己啓発支援のコスト的な優位性が確認できる。しかし情報化社会も影響し自己啓発活動を実行しようとしても最適な選択が出来なくなる。コストだけで判断すると危険である。左下の図は自己啓発支援を実施の際の問題点をまとめたものである。雇用形態を問わず時間的な余裕がないと答えているものが多いことが分かる。効果的な自己啓発支援は有益な情報と実施の時間がポイントといえよう。



厚生労働省の雇用統計から

民主党や野党三党で現行の雇用保険制度より、さらに手厚い保障をするための法律案を提出した。この中で特に重要なものを挙げると、「雇用保険の適用対象者の拡大」や「住宅からの退去を余儀なくされる派遣労働者等に対する援助」などがある。中でも前者は派遣労働者及び短時間労働者も新たに雇用保険の対象とすることを定めており、社会的にも大きな関心を集めた「派遣切り」などの実態をよく考慮した、具体的解決策となっている。また、住む場所すら失った労働者を保護するための措置として、行政が積極的に住宅等を提供する他、解雇後も引き続き同じ住宅に居住させる事業主に対して助成・援助を行うとしている。

雇用保険法の改正によってもなお雇用安全網の対象から外れた労働者や、失業保険の受給期間

が過ぎてても就職できなかつた労働者などは、現行の制度では、生活保護制度に頼らなければならぬ。そこで労働者がよりスムーズに社会に復帰できるように新たに「求職者支援制度」というセーフティネットを設けるという案もある。具体的な内容は、長期失業者等を対象に、職業訓練を受けている間、手当を支給するというものである。現行の政府のとっている職業訓練期間中の生活保障は、生活給付の貸付であるのに対し、この法案では手当が支給されることとなっている。また、訓練内容も農林水産業や介護・医療分野を含め、比較的長期の能力開発を想定していることも特徴として挙げられる。一部の大手製造メーカーが派遣社員をゼロにする計画を打ち出している現在、長期雇用による労働者の保護が企業の持続的な競争の優位性にプラスの影響を与えるであろう。

去る3月18日水曜日、私たちインターン生は外務委員会を傍聴しました。当日は松原議員が質問を行いました。松原議員が質問されるのを見るのは初めてで熱心に聞き入りました。松原議員の非常に具体的かつ明快で堂々と質問される姿は普段事務所で私たちに気さくに話しかけてくれる一面とはまた違った一面でした。松原議員の質問された内容は主に日本の在外公館に関するものでしたが、貿易立国であり資源を持たない日本にとって外交戦略を考える上で多くの国と友好な関係を構築するためにも、どのよう

に在外公館を設置するかは重要な問題です。

松原議員の質問は日本の国益を考えたものであり、国会議員が国民を代表しているという重みのようなものを松原議員が質問される中で感じました。私たちインターン生は普段は大学に通っており、政治を身近に感じることはなかなかありませんでした。しかし、外務委員会を傍聴し、真剣に議論する様子を自分の目で直接見ることでできたのは大変貴重な経験でした。



外務委員会で鋭い質問をぶつける松原議員

## 編集後記

今回は私達インターン生にこのような新聞を書く貴重な機会を与えていただいた事務所の皆様に感謝しています。この二ヶ月間事務所では様々な経験をさせていただきました。インターン開始前後では政治のイメージが大きく変わりました。

内容は稚拙であると思いますが、この記事を通じて少しでも取り上げた問題について考えていただければ幸いです。また、ご家庭などで雇用問題などを話し合ってみるのもいいかもしれません。